

2025年度 八戸学院大学短期大学部

幼児保育学科・介護福祉学科 一般選抜Ⅱ期

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開かないこと。
2. 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用すること。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いたときは、手を挙げて監督者に知らせること。
4. 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
5. 問題冊子は持ち帰ってよい。

【I】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

皆さんは、何のために勉強しているのか考えたことがありますか？

僕は、学ぶ目的のひとつは、「どうしたら自由になれるか」ということではないかと思っています。

たとえば、この山を越えたところには、別の村があつて、いろいろな果物が豊かに実っているらしい。そういう話を伝え聞いても、昔は山に道がなかったので、そこへ行くことができませんでした。

でも、長い歴史の中で、先人たちが少しずつ先鞭を付け、山を越える道を見つけていきます。そして、ある道を歩いていったら、確実に向こう村に行けることがわかるようになります。

人々はいままで 1 狭い世界の中に閉じ込められていたけれども、その道を知ったことによつて、新天地での生活を①イトナむ可能性を手に入れたのです。 さらに、目的に応じて、いろんなところにも出かけられるようになっていきます。

これはつまり、人間が「自由になる」ということです。何も知らなければ、今の生活の枠から一步も外に出られないけれど、いろいろな知識を手に入れるにつれて、行動②ハンイが広がっていきます。「こちらの道のほうが楽に行ける」とか「これを使ったほうがおいしいものが手に入る」とか、「生で食べたら毒にあたって死んでしまうけど、③チョウリすれば安全に食べられる」とか。知識を得ることで、生活がぐんと楽になる。そういうことが起こるわけです。

赤ちゃんは、成長の④カテイでスプーンやフォーク、お箸の持ち方を学びます。手づかみだと熱いものは食べられないけれど、それらを使えば、ある程度熱いものでも食べられるし、手も汚れなくて済みます。

お箸を持つ練習をしたら、食事をするうえでの「自由」が手に入るわけです。もちろん手づかみで食べてもいいけれど、お箸も使えるようになれば、食するときの選択肢が増えるからです。

このように選択肢が増え、目的に応じて選べることを「自由」と言います。私たちが知識やスキル、ノウハウを身につけようとするのは、この意味での自由を手に入れるためなのです。私たちがいろいろなことを学ぶのは、自分の行動の選択肢を増やし、より自由になるためです。その限りでは、**2** 自分のために学ぶのです。これが原点です。

しかし、知識をただ覚えておくだけでは、教養・知性にはなりません。頭のどこかに間借りしているだけです。それをその人なりに血肉化していくには、「考える」という作業が不可欠です。

「考える」というのは、新しい意味、あるいは因果関係を見つけていくことです。一見するとつながりがないように思えることも、それらを別の文脈や⑤ロソリの世界に持ち出して丁寧に消化していくと、少しずつつながっていることが見えてくるから不思議です。

そういうことが少しでも感じられると、ものの見方も違ったものになるでしょう。これこそが、教養を身につけるといふことの意味で、それはまた、学ぶことの意味でもあるわけです。

登山で、道なき道を登っていったら、自分のいる場所がわからなくなります。(A)、あるところまで来ると、急に見晴らしがいいところに出る。そうすると、「うわあ、こんなきれいなところがあったのか」と感動すると同時に、自分が今いるところが、別のかたちで見えてくることがあります。上に行けば行くほど、周りの山や空、遠くにある滝などが見えてきます。途中で周りを見ても木や草しか見えなくて、自分がどこにいるかわからないものです。これは**3** 皆さんが学んでいる状況と似ています。

学ぶにつれていろいろなことがつながってきて、自分の立ち位置、さらには自分が生きている世界が見えてきます。それまで自分が経験的に知っていたことと、新しく教えてもらったことがつながって、もうひとつの高いレベルで意味を理解できるようになるからです。そうすると、世界の見方が変わり始めます。これが、学ぶことの醍醐味です。

今までまったく文字が読めなくて、五〇歳になって初めて文字を勉強し始めた女性がありました。彼女は、「文字を勉強してから、夕日ってこんなにきれいなものだったのか、と思えるようになった」と言います。

文字を読めるようになると、知識への水路が広がります。いろいろなことを理解し、それらの知識がつながってきたことによつて、夕日の美しさに改めて気づいた、というのです。(B)、人間の美意識は、知識とその知識への水路を少しでも身につけた自分という存在の喜びにつながっているということです。

学ぶことによつて自分たちを支えてくれているものが見えてきて、自分とそれらがつながっていることに気づくようになった。そうすると、世界の見え方は、まったく変わってしまうというのです。そういうことがわかると、学ぶことはどんどん面白くなっていくはずですよ。

汐見稔幸『人生を豊かにする学び方』より

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 傍線部1「狭い世界の中に閉じ込められていた」とあるが、この状態を別の表現でどのように言い換えているか。文中から十八字で書き抜きなさい。

問三 傍線部2「自分のために学ぶ」とあるが、「学ぶ」ことが「自分のため」と言えるのはなぜか。次の文の（ ）にあてはまる内容を、二十五字以内で書きなさい。

学んで知識を身につければ、（ ）ことができるようになり、自由を手に入れた結果、自分の生活が楽になるから。

問四 （ A ） 、 （ B ） に入る適切な語句を、それぞれ次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ また ウ ところが エ たとえば オ そうすると

問五 傍線部3「皆さんが学んでいる状況と似ています。」とあるが、登山の例え話と「学んでいる状況」ではどのようなところが似ているのか。次の文の（ ）にあてはまる内容を、三十五字以内で書きなさい。

登山において、あるところまで登ると見晴らしがよくなり、周りの景色がよく見えて、自分が今いるところが別のかたちで見えてくることと、「学んでいる状況」において、（ ） ようになることで、自分の生きていく世界が見えてくるところ。

問六 「学ぶこと」についてのあなたの考えを百字以内で述べなさい。この文章の内容を参考にしたり、この文章の言葉を引用したりしながら書いてもかまわない。

【Ⅱ】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「食品商社「コメヘン」で米田社長の秘書をしている樋口まりあは、取引先の「恵比須^{えびす}や」の岡本が会社を訪れた際、岡本に手作りの簡単な昼食を振る舞う。その後、まりあは、岡本が持参した、味を改良中の羽二重餅^{はふたえもち}を試食するよう勧められた。」

恵比須やは、老舗の和菓子屋で①シュギョウした岡本が独立して四十年前に開店した店だ。

—— 四十年前、大手商社を退社してコメヘンを立ち上げた米田は②クキョウにあった。これまで取引をしていた仕入れ先を切つてまで、わざわざ縁も、実績もないコメヘンに鞍替えしようという商売人はいなかったのだ。

一日、（A）を棒にしまわつても、ひとつの③ケイヤクも取れない日々が続いた。けれど、米田は暗く落ち込むこともなかった。人の笑顔を見て生きる。それが米田が己に課した人生の鉄則だったから。1そのためにはまず、自らが笑つて生きる必要があると米田は信じた。

ある日、新しく店舗らしきものが建ちつつあるところに④ソウグウした。

そこには先客がいて、自分と同じように建物を見つめていた。小柄なその男がよもやその店の主だとは思えないで、米田はこう尋ねた。

「なんの店ができるんでしょうね」

それが米田と岡本との出会いだった。以来四十年、ふたりは互いを励ましあい、高めあいながら仕事を続けてきた。

まりあは羽二重餅をひと口、口にいれた。

「おいしい」

岡本がまりあを嬉しそうに見る。

「口のなかでとけていきました。いくらでも食べられちゃいます：すみません、ちゃんとした感想をお伝えできなくて」

「なに、おいしいっていうのがいちばんだ。でも、お嬢さん、せっかく褒めてもらったけど、その羽二重餅は今日きり食べられないよ」

「どうしてですか？こんなにおいしいのに」

「それはね、味噌汁だよ。あなたが作ってくれた小松菜の味噌汁を飲んでね。ああ、やっぱり今までどおりでいこうって決めたんだ」

2 岡本の言葉にまりあは首を傾げた。

「かみさん、昨年、俺より先に逝っちまったんだが、そのかみさんがよ小松菜の味噌汁を作ったんだ。具は菜っ葉だけ。菜っ葉だけの味噌汁なんて、物足りないよ。俺はさ、油揚げのはいった味噌汁が好きなんだ」

お気に召さなかったのかしらという杞憂と、羽二重餅と小松菜の味噌汁とがどうつながっていくのかわからないまま、まりあはうなずいた。

「油揚げをいれろよって、言ったわけさ。若いころだ。それから大根の味噌汁にもワカメの味噌汁にも、あいつは油揚げをいれるようになった。ところが、小松菜の味噌汁を作るときにかぎっては、小松菜だけなんだ」

「どうしてでしょう？ そのほうがおいしいんでしょか？」

「どうしてかねえ。でも、うまくないってことはたしかだったな」

「すみません」

まりあは思わず詫びた。

「いや、樋口さんのは、きちんと出汁が取れてうまかった。かみさんはあんなに丁寧に出汁なんて取らない。インスタントのやつをパッパッてね」

岡本はそう言うと言った。

「二年ぶりに菜っ葉だけの味噌汁を飲んだよ。⑤ナツかしかった。それを飲みながら、気づいたんだ。うまいもんを作るだけじゃだめなんだって」

「たしかにそうだな」

と、米田も言った。

まりあにはまだ話が見えてこない。

「職人っていうのは、もつといいものを、今よりいいものをつて、いつつも追いかけてしまう生き物なんだ。だけど、こういう言葉があるね。変わらない味。これ、誉め言葉かい？それとも貶し言葉？」

「誉め言葉です」

「そうだね。何百年経っても、同じ味。上にも下にもいかないってことも、上を目指すのと同じように、いや、それ以上に難しいことなんだね。それを食べれば、記憶のなかの味が甦る。甦るのは味だけじゃない」

「記憶そのものが甦るんですね」

「その通りなんだよ。だから変えちゃいけない。うちの羽二重餅を食べて、これを食べたときはあんなことがあったなあ、そう思ってくれるひともいるかもしれないんだ。そんなありがたいお客さんの思い出を奪っちゃいけない。そのことをあなたの味噌汁が教えてくれたんだ。ありがとう」

岡本の話をつなずきながら聞いていたまりあは、**3**最後のひと言に首を横に振った。

「じゃあ、岡本さん、米はこれまでと同じで、だね」

「そういうことだ。それにしても、菜っ葉がくたくたのところまで、かみさんの味噌汁と一緒にだったよ」
「気をつけていたんです。でもつい、煮過ぎてしまつて」
「いや、くたくたでよかったんだ。いつかまた頼むよ」
「はい。いつでもお作りします。今度からはインスタントのダシで」
豪快な笑い声が響いた。

石井睦美 『ひぐまのキッチン』より

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 文章中の（ A ）にあてはまる言葉を、漢字一字で書きなさい。

問三 傍線部1「そのため」とあるが、何のためか。十五字以内で書きなさい。

問四 傍線部2 「岡本の言葉にまりあは首を傾げた。」とあるが、その理由を五十字以内で書きなさい。

問五 傍線部3 「最後のひと言に首を横に振った。」とあるが、このときの、まりあ的心情として最も適当なものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 感動 イ 混乱 ウ 謙遜 エ 失望

問六 岡本が羽二重餅の味の改良をやめたのは、和菓子職人としてどういうことが大事だと気づいたからか。六十字以内で書きなさい。

【Ⅲ】次の文の傍線部が慣用句となるように、（ ）にあてはまる言葉として最も適当なものをあとのア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

① 恩師の言葉を、肝に（ ）じておこうと思う。

ア 名 イ 命 ウ 銘 エ 明

② 袖触れ合うも多（ ）の縁、せっかく知り合いになれたのだから仲良くしましょう。

ア 小 イ 省 ウ 尚 エ 生

③ 心の（ ）線に触れる物語。

ア 近 イ 欽 ウ 琴 エ 均

【Ⅳ】次の四字熟語の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。（解答欄には二字だけ記入）

① シコウ錯誤して納得のいくものを作り上げる。

② 非常に困難な状況だったが、キシ回生でなんとか乗り越えた。

③ 会社の経営はジュンブウ満帆だ。

（問題終了）